

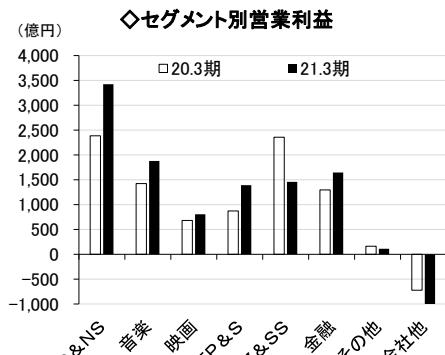
企業ニュース ソニーグループ

(東証1部：6758) <http://www.sony.com/ja/>

作成者:村上大志

P S 5への需要は強い状況が続く

1946年設立。エンターテインメント、エレクトロニクス、金融の3つの領域で事業展開する日本を代表する企業。2020年11月に、P S (プレイステーション) の次世代機「P S 5」を発売。3月末までの累計販売台数は780万台と、目標として掲げた「P S 4」の初年度の販売台数760万台以上を達成した。今期の累計販売台数の目標は1,480万台以上としている。2021年4月にソニーから現社名に商号変更した。21.3期のセグメント別売上高構成比はG & N S 29%、音楽10%、映画8%、E P & S 21%、I & S S 11%、金融18%、その他3%。



G & N S と音楽が業績をけん引

21.3期の連結業績は売上高が8兆9,994億円、前期比9%増、営業利益が9,719億円、同15%増。ファーウェイ向け出荷停止でCMOSイメージセンサーの販売が減少したI & S Sが大幅な減益となつたが、G & N Sと音楽が大幅な増収増益となり業績をけん引した。G & N SではP S 5発売に関わる費用増を、ゲームソフトやネットワークサービスの好調でカバーした。音楽はストリーミング売上の成長に加え、大ヒットとなった『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』が業績に寄与した。また、E P & Sはデジタルカメラの販売台数が減少したが、テレビの製品ミックス改善やコスト削減などにより増益を達成した。

22.3期の会社計画は売上高が9兆7,000億円、営業利益が9,300億円。今期からIFRS適用のため、前期との比較は行っていない。G & N Sはダウンロードコンテンツの販売減少や開発費の増加などで減益の予想だが、ハードについてはP S 5の収益性改善などから前期と同水準の収益を想定している。ネットフリックスなどのライセンス契約の貢献に加え劇場の再開が広がる映画や、デジタルカメラの販売台数増加などが期待されるE P & Sは増収増益を見込む。I & S SはCMOSイメージセンサーへの設備投資増額で減益の予想だが、中国スマホメーカーを中心に需要は旺盛な模様で、今後のシェア回復や高付加価値モデルへの転換などが期待される。

[株価動向・投資判断]

部材不足で供給制約が続くP S 5の出荷ペースが加速すれば会社計画の上振れが期待できよう。

<6758 ソニーG 業績:米国基準>

	売上高及び営業収入 百万円 (伸び率)	営業利益 百万円 (伸び率)	税引前利益 百万円 (伸び率)	当期利益 百万円 (伸び率)	[今期予想の配当金は発行会社予想]	
					1株利益 円	1株配当 円
20.3	8,259,885 (▲5)	845,459 (▲5)	799,450 (▲21)	582,191 (▲36)	471.6	45.00
21.3	8,999,360 (-9)	971,865 (-15)	1,192,370 (-49)	1,171,776 (-101)	952.3	55.00
22.3 予	9,700,000 (-)	930,000 (-)	905,000 (-)	660,000 (-)	-	未定

(注)22.3期の連結業績予想はIFRS適用のため伸び率は「-」表示、「売上高及び営業収入」は「売上高及び金融ビジネス収入」の数値



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2021/5/7)	10,470 円
年初来高値(高値日)	12,545 円 (21/2/5)
同 安値(安値日)	9,915 円 (21/1/28)
予想 P E R (22.3予)	一 倍
1株株主資本(PBR算出用)	4,499.4 円
P B R	2.33 倍
予想配当利回り	- %
(1株当たり配当金 未定)	
R O E (21.3)	24.2 %
発行済み株式数	126,106 万株